

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2019年5月1日 188号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



日陽園公館（水一莊）を訪問したGPA隊員たち。3月11日



アメリカンと「こんにちは！」3月12日



養殖池にて、パクーの追い込みと収穫を体験。3月13日



タロイモ掘り。この日の昼食にタロイモ料理。3月13日

レダは青年研修の最適地！

三月十日から十五日にかけ、GPA (General Peace Academy: 本部=米国ニューヨーク市)の青年とその指導者の一行がレダ基地を訪れて、充実した体験学習をして行きました。GPA隊が初めてレダ基地で研修を行ったのは、二〇一七年二月。今回は三度目になります。

研修生たちは、まず先住民コミュニティのマリアエレナ村で、前もって当会現地法人が造つておいた、学校周囲の柵の下部にレンガを積む作業や、食堂の壁画描きなどの奉仕活動を行いました。子どもたちとの交流も、各メンバーにとって忘がたい経験になりました。

現地で諸般の準備に奔走した佐野道准氏は言います。「マリアエレナ村は、先住民の村の中でも特に貧しい村です。そんなところにアメリカという最高度に発達した文明社会から来て、青年たちも相当に衝撃を受けたようでした。壊れかけたようなヤシの丸木で建ったあばら家にみんな住んでいるのです。青年たちにとつて深く考えさせられる、大きな体験になつたことは間違ひありません。」

そしてレダ基地に上陸してからは、施設見学、タロイモ掘りとその洗浄、パクーの追い込みと内臓処理、ヤシ林の開墾体験、釣り、乗馬、豚ランド見学、ペルト・カナン訪問、等々。

これだけなら青年奉仕隊とほぼ同じような体験学習プログラムですが、今回のGPAは、移動に貸切の観光船を使ったことが画期的です。南米において先駆け歩んだ諸先輩から講義を受け、貴重な体験談を聞きました。そして宿泊や食事の手配はもとより、天候に左右されがちな交通手段の確保に関する心配等を一切することなく、すべての計画を遂行できたと言います。

「今回二週間青年たちと共に過ごし、彼らがとても素直で心情的なことが深く印象に残りました。日本の奉仕隊員は余り表現しませんが、彼らは感謝をすぐ言葉に出します。」（次面に続く）

GPAの若者たち



マリアエレナ村の学校食堂に壁画を描く。3月8日



オリンポで、以前に植えたニームの欠株を補う作業。3月6日



皆で養殖池から取り出したパクーを手に。3月13日



GPAがチャーターした観光船がレダに到着。3月10日



レティロの養豚場を見学する。3月11日



豚ランドにて。3月11日



カピバラたちは、よく人に懐く。3月11日



レダ基地スタッフに見送られて出港。3月15日

レダは六十世帯、二百六十名余り。校生は小学校だけがあり、生徒数は七十人。最近よく学校を建てて、州政府が開所式をするなど、今年度は学校を建てるところです。

「（佐野氏の報告より）

（一面より続く）「最後の日、午前中は全員で最後の釣りを楽しみました。陸からの釣りが多かつたせいか、釣果は大量のピラニア。レダ滞在の最後を飾るに相応しいものにはなったよう思います。夕方アキダバンが来る前にみんながダンスと歌を披露してくれました。この時、目に涙を浮かべていたのが印象的でした。午後六時頃、アキダバンがレダを出港。皆別れを惜しみながらいつまでも甲板で手を振っていました。」「これまで多くのアメリカ人と付き合つてみて、アメリカ人は個人的な振る舞いが多いという観念がありました。しかし今回のチームは、リーダーを中心につきかりと統制されていて、今までのアメリカの青年という概念を変えさせられました。自分にとつても今回の体験はとても新鮮で、心情を洗われたような感じがし、非常に素直な青年たちに大いなる希望を感じました。」
マリアエレナ村について「この村は、オリンポとレダのちょうど中間にあり、今まで全く青年奉仕隊が入ったことのないところでした。住民はTomarajo。（トマラホ）という部族で、レダの上流にあるチャマココ族とは少し違い、ここにしかいない、唯一の部族です。村の責任者によれば、人口はれれば、人口は

「最近の極端な気象」

地球温暖化との戦闘状況

次に、パワー・ポインストによる講義項目の一部を紹介します。

「化石燃料をすべて燃やし尽くした場合、大気中のCO₂濃度の完全な回復は40万年後以降になる。次の氷期はこの残留CO₂のため訪れない!」

「(昨年)七月こんな

三月三十日（土）午後一時半より、川崎市の大山街道ふるさと館イベントホールにおいて第24回環境問題研究会セミナーを開催しました。講師は、東京大学名誉教授で工学博士の山本良一先生。テーマは「最近の極端な気象」で、45名が参加しました。山本先生には、温暖化地獄三部作なる代表的著書があります。①「温暖化地獄－脱出のシナリオ－」『予測』を超える『現実』（2007年）②「温暖化地獄Ver.2－温暖化は気候の激変を起こすティップティングポイント（臨界点）をすでに超えてしまったかも知れない！（2008年）」③「残された時間－できる！CO₂25%削減（2009年）」（いずれもダイヤモンド社刊）講義は、穏やかな口調の中に、どんなに不都合な真実であっても、率直に問題の本質を提示し、待つたなしの現実を希釈することなく、誠実に語ろうとする山本先生の気概に満ちたものでした。

まず初めに「持続可能な開発」の再定義を紹介しました。従来の定義では「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発・世代間の公平性と世代内での公平性とが要件」だつ



山本良一先生と共に。3月30日

教者、自治体、学者、大学、若者、子どもなどによる」と、多くの具体例を紹介。講義の終了後、参加者から活発な質問が続き、その一つ一つに、山本先生が正面から回答し、解説を付け加えてくださいました。最後に参加者全員で山本先生と共に記念写真(上)を撮影し、和やかに閉会しました。今回のセミナーの詳細については、環境問題研究委員会によるレポートをお待ちください。(小田記)

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局

元213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821
FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

に凄かつた、猛暑・豪雨、記録づくりでは、豪雨による死者数、熱中症搬送者数、台風12号の逆走ほか、世界各地の巨大災害の例を多数挙げ、「これが地獄でなくて何だというのでしようか?」とも語られました。「世界で同時に観測された異常気象」「危険な熱帯低気圧が世界で九個同時発生(昨年9月14日)」(中略)「このままで『温室地球(Hothouse Earth)』になる」「1.5~2℃の温暖化で氷床『回復不能』の恐れ—パリ協定のシナリオに警鐘論文(昨年11月13日 AFP=ニュース)」など、最新の衝撃的報道は枚挙にいとまがないほど。また「ESLD(警告主義だと非難されることを用心しすぎて、発言が超保守的な態度になる問題)」についても触れました。

会員種別

- ◆会員一口1000円／月
 - ◆特別会員一口1万円／月
 - ◆法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告
費は、毎月の引き落とし方式で
費振替専用口座（ゆうちょ銀行）

00290-5-113072

加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局：
office@asd-nsa.comへお願ひします。